

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370909

研究課題名(和文) 古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究

研究課題名(英文) Archaeological and Art Historical Study on the Dissemination and Use of Textiles in Ancient East Asia

研究代表者

沢田 むつ代 (sawada, mutsuyo)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・東京国立博物館・客員研究員

研究者番号：40215918

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果としては、まず法隆寺に伝来した染織作品の研究にもとづいて修理を完了できたことがあげられる。これについては科研の最終年度に報告書を作成し、美術館・博物館等の研究者に配布することができた。また国内各地の古墳から出土した繊維遺物について調査をおこない、それぞれ報告書を作成している。これまで古墳から出土した繊維遺物について、本来それがどのような形状の作品であったかについてはあまり研究が進んでいなかったが、各地の遺物を比較し、その構造や使用法についても解明することができた。伝来作品と出土作品を学際的な研究により結び付けたことで、古代における染織作品の世界がより明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The most significant outcome of this project was the completion of the conservation of textile artifacts that were preserved at Horyuji temple. On the final year of this project, we published a report which we sent to scholars at museums and other institutions. Furthermore, we produced reports on each of the research projects on textile artifacts excavated from kofun tumuli across Japan. Previously, research has not proceeded much regarding the original forms of textile fragments retrieved from kofun tumuli. This research, however, revealed structure and usage through comparative studies between extant objects from various sites and institutions. By connecting preserved works and excavated works through academic study, we have reached a clearer image of textile works in the ancient eras.

研究分野：古代染織史

キーワード：法隆寺献納宝物 正倉院宝物 古墳 染織史 考古学 美術史 文化財保存

1. 研究開始当初の背景

我が国における染織作品の研究は、明治時代以来の長い歴史を持っている。しかし、基本的には個別の技法研究や服飾研究に終始している感があり、絵画や彫刻、出土遺物との比較研究はいまだ広範囲に行われていない。近年、文化財保存技術の向上により、これまで保存対象として扱われてこなかった古墳出土の織維作品について、多くの情報が提供されることになった。しかし、考古学においては伝世作品との比較や織成技術に対する研究があまり行われていない。こうした現状をふまえ、今後の染織作品に対する研究方法として、染織史のみならず、美術史や考古学を応用した学際的な研究手法の確立が必要とされている。

2. 研究の目的

本研究は我が国において伝来、また出土した染織作品を通じ、広く古代東アジア世界における染織文化の実像を明らかにしようとする試みである。これまで日本染織史の分野で研究されてきた作品を国際的な文化交流の枠組みで捕らえなおし、我が国に伝来した染織作品がもつ意義の大きさを明らかにしたい。また、考古遺物に付着した織維を詳細に検討することで、現在では形の失われた作品の遺存状態や織物などの種類や仕様等とおして現存作品と比較検討し、古代東アジアにおける染織品の使用法についても、その実態の解明を目指すものである。

3. 研究の方法

染織作品の研究においては、なによりも実物を調査し、その織成技法はもとより、使用段階における縫製等の構造を明らかにする必要がある。このため、スケール入りの詳細写真を撮影し、織密度や作品個々の特性を明らかにする必要がある。このため、作品調査においては所蔵者の了解を得た上で、作品の詳細な情報を取得し、これを集積することで、各地の古墳から出土した作品や伝世作品に対し、比較検討を行った。

4. 研究成果

法隆寺に伝来した染織品の研究にもとづいて、法隆寺伝来染織品の一部の修理が完了できた。これについては報告書を作成した。また、国内各地の古墳から出土した織維遺物については、それぞれの報告書へ論文を発表し、学会や研究会でも発表を行った。

詳細は以下 5. 主な発表論文等の通り。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

・三田覚之「法隆寺伝来 描繪綾天蓋垂飾」(『MUSEUM』656号、東京国立博物館、2014年6月)。査読有

・沢田むつ代「劣化で一部粉状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例 東京国立博物館所蔵作品の事例」(『文化財保存修復学会 第36回大会 研究発表要旨集』2014年6月) 126~127頁。

・沢田むつ代・三田覚之「法隆寺伝来・上代裂 綾幡足と錦残欠等 平成二十二年度修理の成果」(『MUSEUM』第655号、東京国立博物館、2015年4月) 7~24頁。査読有。

・沢田むつ代「法隆寺伝来・上代裂 平成二十三年度修理の成果」(『MUSEUM』第658号、東京国立博物館、2015年10月) カラー図版3~4、本文29~63頁。査読有

・沢田むつ代「《報告》法隆寺伝来上代裂 縷縷・綾・錦・組紐・刺繍・氈等の残欠 平成二十四年度修理の成果」(『MUSEUM』第662号、東京国立博物館、2016年6月) カラー図版3~4、本文7~44頁。査読有

・三田覚之「法隆寺伝来「古裂」の本格修理に伴う配置復元について」(『MUSEUM』662号、東京国立博物館、2016年6月)。査読有

・沢田むつ代「法隆寺伝来・上代裂 天蓋垂飾・錦・綴織・刺繍等の残欠 平成二十五年度修理の成果」(『MUSEUM』670号、東京国立博物館、2017年10月)。カラー図版等3~4頁。本文7~42頁。査読有

・沢田むつ代「法隆寺献納宝物の広東裂 その分類および絵画・彫刻等からみた文様の伝播について」(『MUSEUM』667号、東京国立博物館、2017年4月)。カラー図版等2~4頁。本文7~47頁。査読有

[学会発表](計 17 件)

・沢田むつ代「古墳～飛鳥・奈良時代の金糸の変遷」(東アジア考古学研究会、2014年5月17日、日本大学文理学部3号館)研究発表。レジュメ6頁。

・沢田むつ代「古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き」(工芸文化研究所研究会、2014年5月24日、工芸文化研究所)研究発表。レジュメ5頁。

・沢田むつ代「劣化で一部粉状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例 東京国立博物館所蔵作品の事例」文化財保存修復学会ポスター発表、2014年6月7日(東京・明治大学アカデミーコモン)、査読有。

・沢田むつ代「古墳～飛鳥・奈良時代の金糸

の変遷 金鈴塚古墳出土の金糸を中心に」(金鈴塚古墳研究会、2014年8月10日、木更津市郷土博物館金のすず)研究発表。レジュメ6頁。

・ 沢田むつ代「武者塚古墳出土の遺体の埋葬仕様と経錦の用途について」(重要文化財指定記念シンポジウム「武者塚古墳とその時代」上高津貝塚ふるさと歴史の広場主催、2014年11月9日、土浦市亀城プラザ文化ホール)研究発表。レジュメ4頁。

・ 沢田むつ代「法隆寺と正倉院の染織品 用途にみる形状の違い」(中国四川省成都博物院主催、四川大専校、2014年12月3日)研究発表。

・ 沢田むつ代「法隆寺と正倉院の染織品 さまざまな技法と文様」(中国四川省成都博物院主催、四川大専校、2014年12月3日)研究発表。

・ 沢田むつ代「正倉院所在の法隆寺献納宝物の綾幡足等について」(ギャラリートーク、東洋館シアター、2015年4月7日)

・ 沢田むつ代「正倉院所在の法隆寺献納宝物染織品 錦と綾を中心に」(2016年2月20日、奈良・まほろば館)講演会。レジュメ4頁

・ 沢田むつ代「南あわじ市・松帆銅鐸に用いられた組紐について」2016年6月28日：南あわじ市教育委員会調査会(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター)

・ 沢田むつ代「巖島神社所蔵 錦包み太刀に用いられている錦について」2016年11月17日：錦包み太刀等の復元研究会(巖島神社)

・ 沢田むつ代「古代の染織天蓋」2017年1月17日 ギャラリートーク：東京国立博物館・ミュージアムシアター。レジュメ4頁配布。

・ 沢田むつ代「正倉院の染織 多彩な技法と文様の世界」2017年9月10日 正倉院フォーラム2017よみうり大手町ホール。

・ 沢田むつ代「繊維製品 三味塚古墳出土の遺物に付着する繊維等について」2017年10月15日 考古学研究会第45回 シンポジウム『三味塚古墳を考える 中期古墳から後期古墳へ』明治大学・グローバルホール。レジュメ6頁提出。

・ 沢田むつ代「入西石塚古墳出土の短甲と鏡等に付着する繊維について」2017年11月11日入西石塚古墳研究会 埼玉県坂戸市勝呂公民館。レジュメ8頁提出。

・ 沢田むつ代「描かれた献納宝物と染織品」2018年1月30日 ギャラリートーク・東京国立博物館・法隆寺宝物館

・ 沢田むつ代「正倉院染織品における修理仕様」2018年3月20日 ギャラリートーク・東京国立博物館・特別1室

〔図書〕(計11件)

・ 沢田むつ代「甦った飛鳥・奈良染織の美」(特集陳列：2014年8月19日～9月15日)、リーフレット作成。

・ 沢田むつ代「武者塚古墳出土の遺体の埋葬仕様と経錦について」(『上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第13回特別展 武者塚古墳とその時代』2014年10月15日)

・ 三田覚之「武者塚古墳出土の銀帯状金具と宝珠形中心飾の源流」(『上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第13回特別展 武者塚古墳とその時代』上高津貝塚ふるさと歴史の広場、2014年10月15日)

・ 沢田むつ代「原始古代の織物からみた金鈴塚古墳出土の金糸と織物等」(『金鈴塚古墳研究』第3号、木更津市郷土博物館金のすず、2015年3月)32～60頁

・ 沢田むつ代「古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例」(『文化財と技術』第7号、2015年12月)本文111～142頁。査読無

・ 沢田むつ代「一二〇〇年以上守り伝えられた上代裂の魅力 色鮮やかな染織品の数々」(『目の眼』)第472号、目の眼、2015年12月。26～30頁。査読無。

・ 沢田むつ代「城の山古墳出土品付着の織物の仕様事例」(『城の山古墳発掘調査報告(4次～9次調査)』新潟県胎内市教育委員会、2016年10月)、238～247頁。査読無

・ 沢田むつ代「金井東裏遺跡出土の挂甲と横矧板鋌留衝角付冑等に付着する織物等について」『金井東裏遺跡 甲着装人骨詳細調査報告書』群馬県教育委員会、2017年3月)、313～321頁。査読無

・ 沢田むつ代「島内地下式横穴墓より出土した遺物に付着する繊維等について」(『島内地下式横穴墓群 灰塚地下式横穴墓群』えびの市教育委員会、2017年3月)、271～280頁。査読無

・ 沢田むつ代「善一田古墳出土の盛矢具に付着する繊維について」『乙金地区遺跡群23中巻 善一田遺跡第4次調査』大野城市文化財

調査報告書 第159集、大野城市教育委員会、
2017年11月。141～150頁。査読無

・沢田むつ代・三田覚之『東京国立博物館所蔵 法隆寺伝来 飛鳥・奈良時代の染織品』株式会社アイワード、2018年3月。科学研究費「古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究」平成26～29年度 科学研究費助成事業 基盤研究(c) (課題番号 26370909) 研究成果報告書。総頁 256。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

沢田むつ代 (SAWADA mutsuyo)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・
・客員研究員
研究者番号：40215918

(2) 研究分担者

三田覚之 (MITA kakuyuki)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・研究員
研究者番号：00710493

(3) 連携研究者

(0)

研究者番号：

(4) 研究協力者

(0)